

社会福祉法人武蔵野 障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野  
令和七年度地域連携推進会議 議事録

1. 日時

2026年1月28日(水) 10:00~12:00

2. 場所

わくらす武蔵野 3階会議室

3. 出席者

- |          |       |                  |
|----------|-------|------------------|
| ① 利用者代表  | 倉田 彰  | 様 (わくらす武蔵野利用者)   |
| ② 地域の関係者 | 佐藤 清佳 | 様 (民生委員・第三者委員)   |
| ③ 利用者家族  | 後藤 満樹 | 様 (わくらす武蔵野利用者家族) |
| ④ 法人職員   | 草野 泰治 | (わくらす武蔵野 施設長)    |
| ⑤ 法人職員   | 土橋 輝明 | (わくらす武蔵野 副施設長)   |

4. 目的

- ・当事業所の運営・現状と施設環境を共有すること。
- ・権利擁護、設備、サービスの課題、地域資源としての公共性について外部視点で点検すること。
- ・意見・助言を踏まえて運営改善と地域連携の具体化につなげること。

5. 議題

- ①本会議開催の意義について説明(草野)
- ②事業説明
- ③質疑応答(利用者インタビュー含む)・意見
- ④見学

6. 配布資料

- ・広報誌「ぶれっそ」
- ・2025年度 事業計画
- ・2024年度 事業報告

7. 議事

- ①本会議開催の意義について説明
  - ・令和6年度の障害福祉サービス報酬改定にともない地域連携推進会議が義務化された。
  - ・わくらすのような生活施設の事業の透明化、可視化が一つの目的。
  - ・さらに地域への公共性が求められているので、地域との連携を強めるために開催。

- ・事件、事故、虐待の報道も多いのでなるべく福祉施設に外部の目を入れることも目的とする。

## ②事業説明

「わくらす武蔵野の沿革と概要について」

- ・平成31年3月オープン。次の3月で8年目を迎える。
- ・翌年、世界的な規模で新型コロナウイルス感染症のパンデミックが起こる。事業規模の縮小や活動を制限せざるを得なかった。保健所の指導のもと感染症対策/拡大対策を徹底していった。
- ・令和5年5月、2類から5類への引き下げを受けコロナ禍前に戻していこうという動きがはじまった。外出活動も再開をした。

「事業について」

- ・施設入所 定員40名（2026年3月現在 満床）
- ・生活介護 定員50名 施設入所者40名+通所者10名（現在46名）
- ・短期入所 定員2名
- ・なごみの家 定員2名
- ・指定相談事業所 主に入所者対象の相談支援
- ・地域生活支援拠点等事業  
（市内の支援体制の整備・構築、ハイリスクな方の緊急受け入れのシミュレーション、ケース会議など）
- ・貸館事業  
（吉祥寺北町5丁目町会のもちつき大会をわくらす敷地内で開催、来年度はけやきコミセンの改修工事に伴い、コミセンの運営会議などのためにわくらすオリーブホールを使わせてほしいとの声もある。）

「わくらす武蔵野の現状について」

- ・年齢構成 20代2名 30代12名 40代12名 50代12名 60代2名 平均44歳  
全国的な入所施設の中では比較的平均年齢が若い、この先5年～10年後に向けて「高齢化」などへの対策も必要になってくる。
- ・男女比 男性22：女性18
- ・平均障害支援区分 5.4
- ・外部通所者（6名）内訳 20代1名 30代2名 40代2名 60代1名
- ・スタッフ52名  
（施設長1名 係長2名 主任6名 ナース4名 管理栄養士1名 事務2名 直接支援スタッフ36名）
- ・専門職の活用  
臨床心理士、作業療法士、理学療法士、運動講師、訪問歯科診療、嘱託医。
- ・食事は地下の厨房で調理。厨房のスタッフは外注
- ・委員会活動

事故虐待防止サービス向上委員会、衛生保健感染症予防委員会

- ・東京都へ報告する事故は今年度2件あった。(ご利用者転倒骨折事故、点眼薬誤薬事故)  
(処方薬に関しては薬局に記名や一包化をしてもらっている。さらにそれを医務が振り分ける。  
服用する際もスタッフがダブルチェックしているので、事故は未然に防いでいる)
- ・創作活動(つむぐと)にも参加し、サウナハットを制作し販売した。あったかまつりの立ち合いなどスタッフが協力している。
- ・大野田小学校の講師を引き受け、児童(3~4年生)向けに講義を行った。また近隣の法人や関係団体などで講義することもあった。
- ・苦情6件(うち4件はご家族より個別的ケアに関するもの)

### ③質疑応答

「利用者インタビュー 倉田さん」

- ・職員さんは優しいですか?  
→優しい。
- ・なんでも話聞いてくれますか?  
→……………。
- ・給食はどうですか?美味しいですか?  
→美味しい。
- ・こんなメニューが食べたいというのはある?  
→いっぱいある。
- ・例えば?  
→あるけど、いい。
- ・いつも残さないもんね。こんなの食べたいなというのがあったら教えてほしい。

「質疑応答・意見」

- ・入所している方と短期入所の方との接点はあるか?  
→短期の方もユニットに入るのでリビングなので入居者と一緒に過ごす場面もある。
- ・地域資源を利用することはあるか?  
→ふらっと北町、けやきコミセン、総合体育館のプールやランニングコース等の利用をしています。けやきコミセンの夏まつりへの参加し焼きそばなどを購入して食べた。
- ・65歳を過ぎたら介護保険サービスに切り替わるか?  
→65歳を過ぎても、わくらす武蔵野を継続して利用することができる。本人の状況や意向を確認しながらすすめていくことになる。
- ・ボランティアは入っていますか?  
→現在は入っていない。受け入れの準備をすすめている。イベントのボランティアや定期的に来ていただくようなボランティアの受け入れに今後は力を入れていきたい。法人全体でもコロナ禍でいったん途切れてしまったというケースも多いので。
- ・ボランティア募集の周知を行えば、やってみようと考えている地域の方は多いと予想ができ

る。市内のある施設ではボランティアのメンバーも固定化し、徐々に少なくなっている状況。新しい方が入ってこない。今後ボランティアにも開かれた施設であることを期待する。

- ・日常的に食べたいものを伝えるような機会はあるか？

一人ひとりに聞いているわけではないが、日常的なやりとりの中でスタッフが拾っていくことはある。健康とのバランスも考えている。個々によって食事の形態もばらばら、とろみ付、きざみ、ペースト状など、それぞれの利用者に合わせて調理している。

- ・利用者は自分の思いを伝えることができているか？

→必ずしも全てできているというわけではないが、スタッフは利用者の思いをキャッチしようと常に心がけている。一人ひとりじっくりお話しできるような時間を作ることは難しいが、食事までの間、寝るまでのひと時にコミュニケーションを取れるように意識している。

- ・理念や支援観、考え方を伝えていく機会や方法は？

→スタッフと年三回の面談には力を入れている。またOJTを活用し、リーダーや主任から伝えている。研修なども派遣し参加させている。

- ・虐待とまではいかないが、利用者が疎外などされていないか？そういうものを職員がキャッチできているか？

→ご本人に不利益にならないように意識している。小さなできごと（支援の場面で気になったこと）を振り返られるような取り組みを事故虐待防止サービス向上委員会でも行った。グレーな支援をみんなで共有できる関係性を作っている。

- ・近隣から苦情はありますか？

→立ち上げの時に苦情はあったが、徐々にご理解に向けてすすんでいるのではないかと。少しずつ地元で馴染んできた部分もあるのでは。今後も理解を求めていく姿勢が大切。

- ・居室で利用者がリラックスできているか？

→言葉がなくても声を出して意思表示する方も多し。それを職員はキャッチし、ご本人がどのように過ごしたいか想像しながら支援を進めている。また定時で居室を巡回し、様子を見守っている。居室は利用者それぞれの過ごし方で過ごしている。リビングで職員と一緒に過ごすのが好きな方もいるし、一人で過ごすのがよい方もいる。どんな過ごし方をしてもよいという部分を保障していきたい。